

伯夷叔齊墓碑

1091年(北宋・元祐6年)

碑法帖拾遺 ④

木雞

木雞室

伊藤 滋



伯夷・叔齊の墓に建てられた碑である。この碑を作り筆を執ったのは、宋の四大家の一人である黄庭堅(こうていけん、慶暦5年(1045年)―崇寧4年9月30日(1105年))字は魯直、山谷道人などと号した。蘇軾、米芾、蔡襄とともに宋の四大家に数えられる。)である。一般に黄庭堅といえは、やや右上がりの直線的な個性的な書を思い浮かべる人が多いであろう。遂良の『雁塔聖教序碑』の書法を土台

とした楷書である。書道史の分野でもあまり知られていない碑である。横画が直線的で独特な右肩上がりであり、非常に個性的な書風を作り出した。しかし『伯夷叔齊墓碑』は40代後半の書であり、褚遂良の楷書を好く習った趣を示している。他に宋代では徽宗皇帝も褚遂良の楷書を土台にした瘦金体と呼ばれる独自の書体を生み出している。黄庭堅の書法研究の珍しい資料である。



徽宗皇帝(瘦金体)



黄庭堅の碑末

伯夷葬齊墓在河  
東蒲坂雷首之陽  
見於水經地志可

# 書道芸術院 平成の書 (2008)



## 小伏 竹村

(財)書道芸術院  
名誉顧問

昭和20年(1945年)の終戦を機に書は、古典中心の書表現から次第に「現代書」として先駆的な書がその体裁を整えてきた。前衛書・少字数書・近代詩文書といったジャンルがそれぞれある。振り返ると現代書が急激な発展をみた陰に大きな社会の経済力があつたと思う。そして高揚した国家的な精神力とが融合した結果と思う。洋の東西を問わず、経済力のない所に芸術や文化の栄えた例をみない。昭和の後半、日本の芸術が新しい方向にむかって開花したもう一つの理由は大衆性である。貴族社会や宗教環境、あるいは何等かの権力がもたらしたのではなく、庶民の力が大きく影響を与えたと思う。庶民の生活や感情・趣向に調和する芸術として発展してきたと思われる。今日、全ての大企業が本社を東京へ集中させているが、その経済力は途方も無い大



「天下太平」

2008年1月  
毎日現代書関西代表作家展出品

きなもので、芸術が書も含めて東京へ依存する大きな理由になっている。

さて、現代書が、平面表現からパランスや骨力、墨の濃淡といった立体表現の造形性に力を尽してきたのは書道史上、画期的な事象である。少字数書も一字あるいは二字といった極めて少ない字数で一つの空間に書の造形を生みだし、大衆にも理解されるようになった。しかしバブル経済の崩壊と共に、次第に先駆的精神が失われ、作品に形骸化が現れてきたことは、書の発展に大きな障害となって動脈硬化をきたした。

平成に入って「形骸化」が議論されるようになった。

私は形骸化脱却の一方策として甲骨文を追求することとした。私は甲骨文を書表現の素材として活用し、刀意刀刻と筆意筆力が融合調和し、さらに造形に創意工夫し、また古典のもつ品格の高さにも留意している。写真は本年正月、大阪アベノの近鉄アート館で開催された毎日書道展関西代表作家展に出品した「天下太平」である。

雪舟や鉄斎の墨絵と同じように、書が国際的に民族芸術として認識されるためには、先駆的精神を失ってはならないし、若い人たちの活躍が一層期待される。

# 書のひろば

理事長 恩地春洋

## 平成20年度 書道芸術院の事業大綱決まる

財団法人書道芸術院は3月16日(日)、評議員会、総局支局長会議によって、平成20年度の大綱を決定した。

### 現代の書代表作家

#### サンパウロ展

毎日60周年記念事業

ブラジル移住百周年と重なり、「日伯交流年」の一環として、毎日書道会の「現代日本の書代表作家サンパウロ展」の実施要項が発表された。

名称 日本人ブラジル移住100周年記念「現代日本の書代表作家サンパウロ展」(日本政府認定事業102番)  
主催 毎日新聞社・(財)毎日書道会・サンパウロ美術館  
後援 在ブラジル日本国大使館  
在サンパウロ日本国総領事館ほか  
会期 平成20年10月21日～11月9日(予備博 10月14日から実施)  
会場 ブラジル・サンパウロ美術館  
開会と祝賀会  
開会 10月21日PM7:00サンパウロ美術館  
祝賀会 10月22日正午H・インターコンチ  
出品者 毎日物故者 約30名  
毎日展現役作家 約100名  
作品 2×8(縦のみ) 2.8×5.8(縦横自由) 4×4(額装・軸額)  
作品締切 5月30日(金)

#### ◇(財)書道芸術院役員

(H20・4・1～H22・3・31)

#### 名誉顧問 (4)

小伏竹村 浜田一堂(新) 村野大仙

袖口青萍

#### 常任顧問 (3)

水谷鴨村 鳥山岳風

山下皓映(新)

#### 理事 (15)

飯高和子 板垣洞仙 大平鉄男 大野祥雲 尾形鼎山 恩地春洋 黒川江偉子 小伏小扇(新) 砂本杏花

嵯峨大拙(新) 辻元大雲 香川倫子

西林乘宣 浜谷芳仙 宮澤梅徑

#### 監事 (2)

木村船翠 小竹石雲(新)

◇退任に伴う補充人事

評議員

稲垣小燕 最首翠風 浜田堂光

出品料 5万円

〈院からの出品〉

大野祥雲 下谷洋子 辻元大雲

小竹石雲 浜谷芳仙 千葉蒼玄

参事 尾崎米藏

東北総局長 嵯峨大拙

関西総局長 小林琴水

◇平成20年度事業計画

1、第62回書道芸術院展

会期 平成21年2月6日～11日

会場 東京都美術館

出品作品サイズ、出品料

など前通り

2、書道芸術院秋季展

会期 平成20年9月30日～10月5日

会場 東京セントラル美術館

出品者、昨年同様

(審候対象の公募2年目)

3、第60回記念全国学生書道展

会期 平成20年7月28日～8月3日

会場 東京都美術館 ロビー階

主催は姉妹団体全日本学校書道連盟

〈台湾見学の旅〉派遣

ア 派遣 学生展特別賞受賞者

イ 期間 8月1日～8月3日

ウ 訪問 台北市(見学と交流)

台湾の小・中・高校生と書

写書道の交流を予定

4、書初誌上展

・月刊「書の教室」平成20年3月号に作品、成績発表

5、書道芸術院講習会(単位認定)

会期 8月23日～24日

会場 岡山県倉敷市

鷺羽ハイランドホテル

受講 本院会員

#### 6、講演会

期日 11月23日(院創立記念日)

会場 東京上野 精養軒

講師 伊藤 滋先生

「書道芸術」に「碑法帖拾遺」を執筆戴いている著名

な金石研究者(演題 未定)

7、「書道芸術」の出版

「書の教室」

#### 百人一首揮毫に

##### 下谷洋子先生

日本郵政グループ発行の好評の切手「百人一首」の揮毫者が発表された。

発売は、7月23日(水)ふみの日

揮毫者 小山やす子 大立祥玉

松井玉琴 下谷洋子

三宅相舟



台湾故宮博物院

## 前衛書 (一)

三森 慧 香



1987年  
書道芸術院展

た。潤筆と渴筆の扱いがむずかしい、むずかしい。当時、ほとほと弱りましたねえ。しかし、これには恐い落ちがつく。30年経過した現在も、ほとんど同じ状態で弱っていることです。もう

六回に分けて表題に回答するなど、その段取りを考えるだけで頭が痛くなつた。そこで、内容の浅薄、重複は気にかけず、思うにまかせてつづることにした。あとは、気が楽になり過ぎぬように、恐い形相の諸氏を想いながら進めるのが肝心なりと我が身に言い聞かす。前衛書は、円と線の引き方の練習と、たくさんの濃墨を作ることから始まっ

それは降参状態です。私だけが知る恐怖体験でしょうが……。

この作品は1986年に春蘭先生が亡くなられた翌年の院展で特選を受賞した作品であり、思い出に残る作品のひとつです。

これを境にご指導が春蘭先生から 倫子先生へと代わられました。

作品から自分を

ふり返るのは、いともたやすいが、

それを人にお伝えするのは、これまたむずかしいことと、このたびでよく

分かった。総じて申せば「少女老いやすく、果生

りがたし」とでも。



三森慧香書

「作品2008-1」 32×24cm

## 21世紀の書

— 私の主張 —

## 漢字 (一)

有野 琿 扇

個展  
「from  
the  
UNIVERSE」  
(1)



120×240cm

「テーマを決める」  
2006年、東京「アートサロン毎日」関西「spacePIVOT」で私は個展を開催しました。今ここで改めて個展に至るまでの軌跡を振り返り、今後の進むべき道を探りたいと思います。  
個展で自分の世界を表現するには、まずテーマを決めることが最も重要な要素の一つだと考えています。新しい視点にたつてテーマを決め、焦点を絞って追求する。ここから個展への第一歩を踏み出しました。

私はここ数十年、甲骨・金文の魅力にひかれて作品づくりをしてきました。素朴で力強く、繊細な造形美を持つ不思議な文字。その生命力は今なお現代の漢字の中に脈々と生き続けている。これこそ古代人が天からのメッセージとして残してくれたもの。この文字を素材に自分の内なる生命の響きを表現してみたいと思うようになりまし。太古から延々と連なってきた地球上すべての生命は、遙かなる宇宙へと繋がっている。そこには宇宙からのメッセージが詰まっている。  
漢字の起源、甲骨文と生命の源、宇宙とが相呼応する作品を創りたいという思いが膨らみ始めました。テーマは迷うことなく「from the UNIVERSE」と決めました。

「彗星」

有野琿扇書

第61回書道芸術院展

<1>

峰雲賞



平岡千香子

『冥加』



前衛書部  
平岡千香子

作品締切前日に浜谷芳仙先生に下見を願ったらこれではと良い返事がもらえなかった。もう時間がないノすっかりあきらめモード。何くそノ情けない自分に負けたくないの一念で真夜中、一気に書き、夜明けを待った。まだ乾ききっていない作品をかついで再度、浜谷先生に見て貰った。これならよからう…?との言葉にホッ。あとは野となれ山となれの心境で発送した。審査結果、意外な事に平岡が峰雲賞だとの電話があり、頭の中が真白になった。何時もお世話になってる香川倫子先生から、迷いのないいい作品だったよといわれても、ただただボー。とに角、今もただ先輩の方々や書屋舎の皆様、さらに、理事長・恩地先生はじめ院の先生方に感謝感謝の一言に尽きます。また、早朝より受賞式準備くださった諸先生方ありがとうございました。

書道芸術院大賞



嶋田麗雲

大賞をいただいて



現代詩文書部  
嶋田麗雲

このたびは、栄えある賞を戴きありがとうございます。諸先生方の熱情あふれる御指導と会員の皆様方の御支援のお陰と感謝いたしております。最近、私は雑務に埋没してしまいそうなる暮らしの中で、今日この時も、筆を持ち続ける事ができる喜びを幸せに感じております。書道芸術院とのご縁をいただき、師・砂本杏花先生と巡り会い、作品に対峙するその姿勢・感性・技術の全てを目の当たりにする度に、その感動は、尊敬の念となり、崇高な憧れとなりました。これからも師の魂を吸収すべく更に精進して参る決意です。夢は、常々御教示の作家としての自覚を持ち、諸先生方のように観る人に感動を与え「自分色」の作品を生み出す作家となることです。今後ともよろしく御指導をお願いいたします。

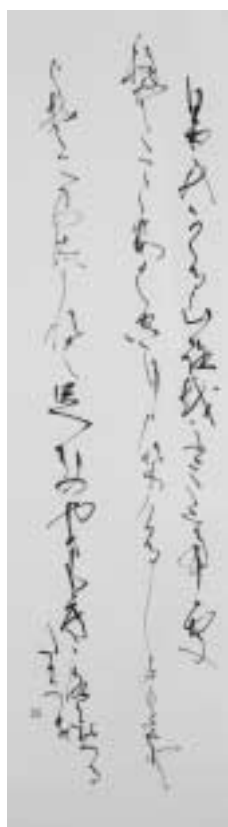
準大賞



漢字部  
大原律子



前衛書部 上野鈴子



かな部  
栗原信子



かな部  
須田清子



篆刻・刻字部  
高橋秀



漢字部 三谷嶺雲

白雪紅梅賞



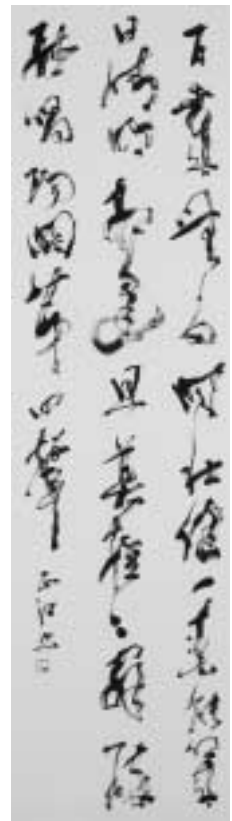
現代詩文書部 原 博 峰



現代詩文書部 武山 櫻子

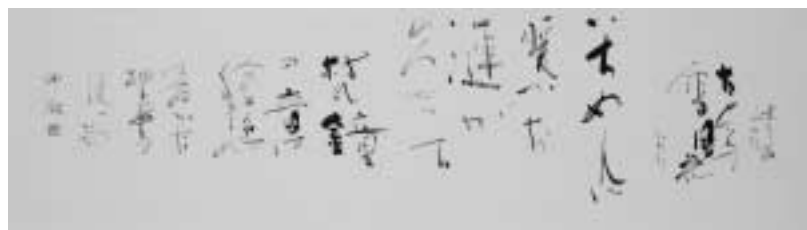


前衛書部 大友 紅蓉



漢字部 横井 正江



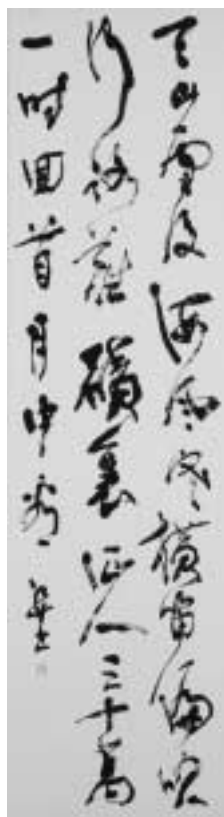


現代詩文書部 鈴木承琳



漢字部 星野英蘭

白雪紅梅賞



漢字部 三木江竹



篆刻・刻字部 畑中玄石

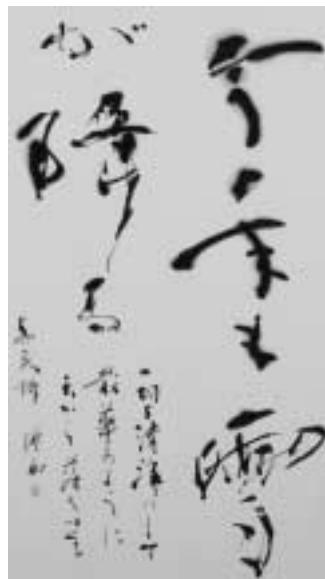


漢字部 佐藤星沙



前衛書部 鈴木善一

白雪紅梅賞



現代詩文書部 長島僊雨

無鑑査に対する賞

院賞

・漢字部

池田箏紗 上田多恵子 川嶋里美

椽尾拳興 山崎絹恵 山脇山鳥

・かな部

遠藤紅芝

・現代詩文書部

阿部珠光 金濱珀燁 木村素風

舟寶恵美

・篆刻・刻字部

那須晴陽

・前衛書部

上路彩炎 原田玉風 藤原紅雲

毎日新聞社賞

・漢字部

浜野永篁

・かな部

宮澤美根子

・現代詩文書部

山田香園

・篆刻・刻字部

丸山筑峰

・前衛書部

原島春汀

特選

・漢字部

安藤華祥 飯田光彩 板倉紅耀

伊藤彩翠 今関美千代 岩間祥葉

尾池赤紅 大窪翠村 岡本翠陽

小川白柳 小澤美翠 垣坂等華

加瀬良子 川合寿石 清遠 瑞

熊谷秋芳 合田遊春 小林椿壽

小林瑞穂 斉尾桜翠 坂本泉翠

佐藤淳柳 猿渡篁右 澁谷典子

杉田幸春 泉水龍栄 橋 由紀

田中喜美枝 田中宝春 谷本香裕

田原洋子 戸部悦子 根茂小瀧

濱田翠月 平倉明楓 深堀清洗

福田優虹 藤井知春 堀川魯春

本田春穂 前浜裕香 増田華秀

松田藍華 水品亮子 宮内耕雲

八橋啓郊 山田悦睿 山根恵郊

・かな部

渡辺妙子

伊藤良佑 太田玲子 織田邦子

斉藤万里 近見依未 治田芳江

星野栄子 宮沢草秋 森口綾子

渡邊文字

・現代詩文書部

赤城澄江 秋元翠楓 朝倉爽陽

岩崎陽光 大友汐苑 大場淑子

岡田桃花 尾田素紅 亀谷恭子

齋藤美津江 佐藤糸乃 佐藤友希

佐野桂翎 芝辻櫻春 鈴木千恵子

高野博行 高橋杏苑 高橋桂江

田中桜苑 柘野聖柳 常久和峰

富田瑤翠 長井隆仙 中村美溪

吐生真由美 早川蕙風 樋口泉風

松本登美子 湊 溪花 村上礼子

望月 彩 山合史紅 山本惠葉

吉田眞理 若田部磨世 和田倫子

・篆刻・刻字部

山本大涛 米川由希子

・前衛書部

石田 香 小野朱星 門脇信子

亀井 勤 岸 直美 北村早苗

後藤 歩 近藤桜紅 近野響神

坂田翠江 澤藤和江 菅原妙子

高橋蘭花 高山幽翠 竹ノ内寿紅

田中草華 田名部茜 中野真瑛

野口加奈 廣瀬幸枝 伏津玲子

二上紫泉 横山晁光

一般公募に対する賞

準特選

・漢字部

蘆田博子 一森亜耶奈 一森映泉

上木京子 大庭欣子 木下雅子

君島 勲 日下部萩香 後藤美知子

小松由琴 中村定子 西村圭史

花野珠美 速水美恵子 平野満翠

村井聡子 目良聡衣 安木喜苑

・かな部

石坂光代 京 絹子 酒井恵子

末棟直子 星野瑠美

・現代詩文書部

相澤敦子 石崎貴子 小野寺京芳

川井桜華 善波美香 高橋良恵

笨 陸子 玉木恵葉 富永直子

根本なごみ 目良まゆみ 矢野京子

遊佐香風

・篆刻・刻字部

市瀬 洋 藤田翠徑

・前衛書部

石森光琴 伊藤青藍 遠藤高広

小野寺美智子 川島澄仙

澤目和香子 高原景子 鳥山明子  
 中山ふき 林ひとみ 宮本静子

《一般・無鑑査》  
 各部  
 審査風景



次号につづく



大唐中興頌序 尚書水部

用紙 半紙普通判  
|| 注 ||

漢字研究部競書作品は、  
左の法帖の中から

何文字臨書してもよい。

(掲載部分以外は不可)

※落款を必ず入れる

署名、もしくは

〇〇臨

(押印のみも可)

〈解説〉

湖南祁陽の浯溪 (石の奇絶なことで有名) の石崖に刻せられたもので俗に摩崖碑と呼ばれる。

71年に建てられたもので顏真卿が62歳の時にあたる。一字約12〜3センチの彼の楷書としては極めて大字である。

左から書き出し、右へ移行する、珍しい左行の書である。

唐が安祿山の乱を平定し、長安洛陽の両都を回復し、帝業を中興しえた喜びを述べたものである。(編集部)

継色紙つぎしきし (伝 小野道風おののみちかぜ)

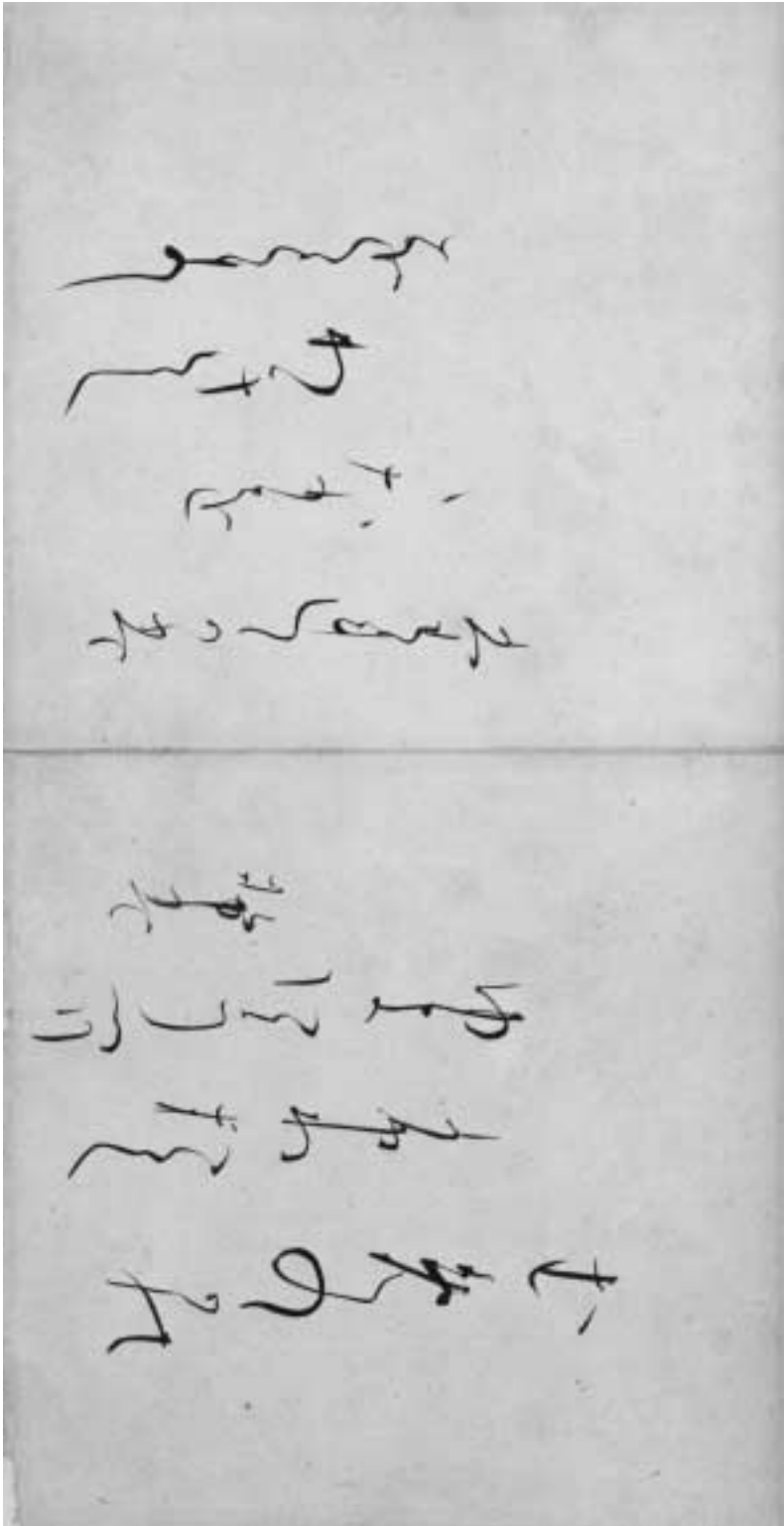
①

※左記の掲載歌一首を書く

用紙 ・ 半紙普通判 (料紙可)

〈よこ長に使用〉

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨 (押印のみ可)



〈よみ〉

むめ(免)のか(可)の(能)

ふ(布)り(利)お(於)く(久)

ゆき(支)にう(つ)川(り)

せ(勢)ば(盤)

た(堂)れ(連)か(可)は(盤)

な(な)を(ま)ぎ(て)三(三)

を(ま)ま(し)

〈解説〉

方形 (縦13.5cm×横13.4cm) の料紙二枚に歌一首が散らし書きされる。

一枚の料紙に上句が、次の料紙に下句

が書かれ、二枚を継ぐことで一首の歌になることから継色紙と呼ばれた。

書風は、変体かなを多用し、震えるような微妙な運筆が枯淡、あるいは、古雅などと称されて格調の高さが尊ばれる。

(編集部)

漢字規定 初段以上 【五月二十日締めきり】 用紙 半紙普通判

千葉耕風選書



花老鶯(鶯)啼

よみ(花老いて鶯啼く)

書体||自由

## 習い方解説 (一)

千葉 耕風

花老鶯啼

温新の句

(花老<sup>お</sup>いて鶯啼<sup>な</sup>く)

花老鶯啼は信濃では冬一番寒い日から、百日たつと梅、桃が咲くと言います。蘭亭叙を参考にして書きました。  
墨は大好山水を使いましたが、寒くて墨がねばり苦労しました。  
墨液も年々よくなって来ましたが「墨は、すれ」の師の言葉が頭から離れず、磨り墨で書くようになっています。

漢字規定 秀級以下 【五月二十日締めきり】 用紙 半紙普通判

牧 泰濤 選書

習い方解説 (一)

牧 泰濤

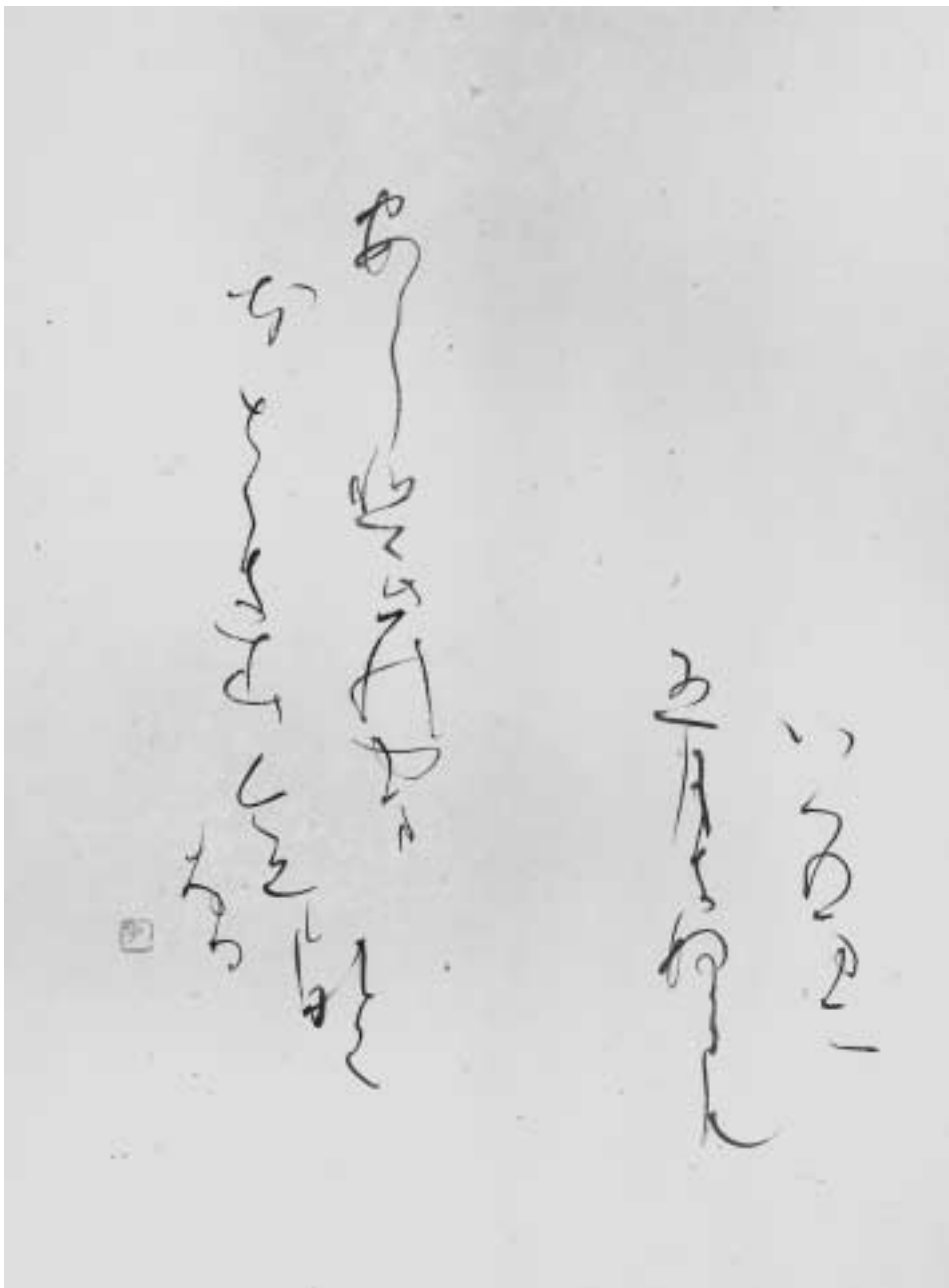


揚正發邪  
正しいことをほめたたえ、  
不正なことを明るみに出す。

- ① 今月より参考手本担当になりました。よろしく願います。6ヶ月通して楮遂良風の書体で書いてみます。課題は四字(4〜7月)と五字(8、9月)。いずれも格言。詩文語句に比べ格言は心情的に堅くなりませんが、楷書体には適していると思います。
- ② もとより似て非なる楮風しか供しえませんが、是非『雁塔聖教序』を並行して学んでください。線が細く明るく、筆の抑揚の強弱表現と流麗な筆使いを学習していただきたい。
- ③ 上達のポイント(1) 文字の配置(布置)を考えよう。四字とも方形なので半紙に納めにくいかも、これも大切な力。
- ④ 筆は羊毫(径0.6cm、長4.2cm)。6ヶ月とも使用。

揚正發(発) 邪 よみ (揚正發邪)

書体||楷書



### 習い方解説 (一)

大辻 多希子

いつの間にさつき来ぬらむ  
あしひきの山郭公今を囁くなる  
(古今集)

作品を書く時の線についてふれます。一般的にかなは流麗で美しいと思われています。美しく表現しようとする思いから、墨色が薄すぎたり、線が細いだけでは表情が弱くなります。高まる表現を出すためには、逆筆の駆使が大切な要素となります。起筆は逆入することによってある種の重さを作り出します。素直で滑らかな線や、切れ味のある線、筆圧を加えた弾力のある線などが自然にからみ合いますが作品は豊かになります。紙の質や、筆、運筆の姿勢による角度でも線質は変わります。

また連綿線の途中にある転折の一部では強く筆先から入り腹で受けとめる箇所、悲き、等があります。見やすくするため渴筆は控えめです。今で墨をつけてください。

よみ方

いつのま(万)に(二)五月き(支)ぬらむ(五)あ(安)しび(悲)きの(能)やま(万)  
ほ(本)と(ぎ)す(巻)今ぞな(那)く(久)なる

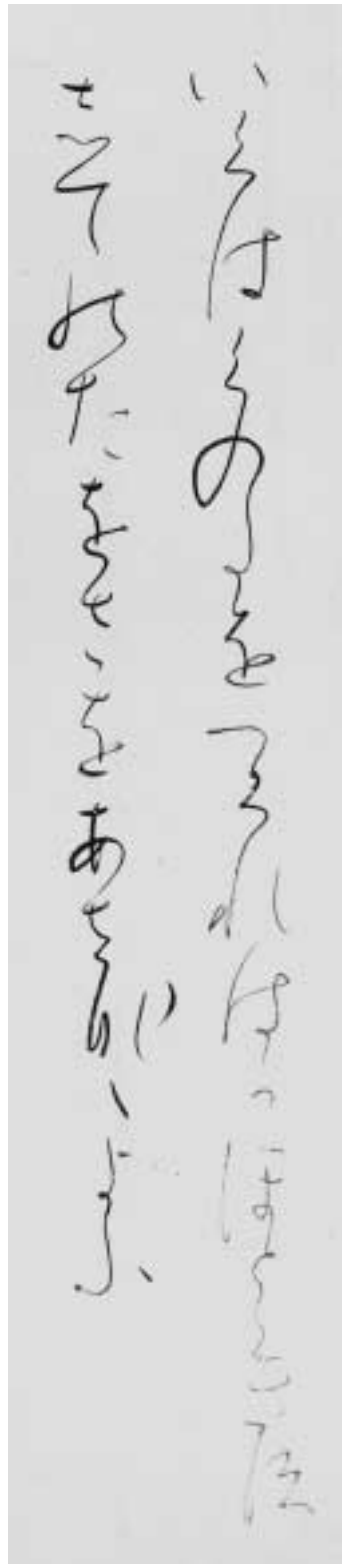
創作



かな規定 秀級以下 【五月二十日締めきり】 用紙 半紙タテ1½ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全臨、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

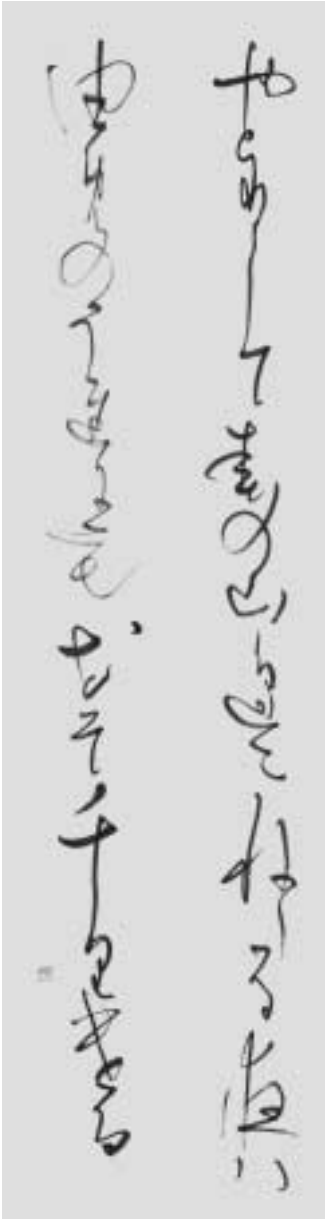
高野切第三種  
(掲載写真縮小93%)



よみ方 いく(久)ばく(久)のた(多)をつく(久)ればか(可)ほとゝぎす(須)  
し(志)での(能)たをさをあさな(那)くよぶ

かな条幅規定 【五月二十日締めきり】 用紙 小画仙紙半切(料紙可)

石井明子選書



よみ方 やどり(利)して春の山辺に(二)ねた(多)る(留)夜は(八)  
ゆ(由)め(免)のうち(運)に(六)も(毛)花ぞち(十)り(里)け(遣)る

創作

### 習い方解説 (一)

石井明子

やどりして春の山辺に寝たる  
夜は夢のうちにも花ぞ散りける  
(紀貫之)

難解な字を使わず、読み易さを  
ねらってみました。柔らかな流れ  
は連綿線に頼り、委ねました。

貫之のどんな暮しの中からの私  
歌が生まれたのか、田舎育ちの私  
には想像の範囲のことです。歌意  
の把握を十分にし、用字について  
も疑問を解消してから、筆をとっ  
てください。筆はねじ伏せること  
なく、優しく使いまししょう。

\*たて形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 【五月二十日締めきり】 用紙 小画仙紙半切 山内孝石 選書



春雨初晴是緑陰 故人隔水晚相尋  
(春雨初めて晴れ是れ緑陰 故人水を隔てて晩に相い尋ぬ)

書体||自由

漢字条幅規定 秀級以下 【五月二十日締めきり】 用紙 小画仙紙半切 生田翠龍 選書



守拙歸園田  
(拙を守って園田に帰る)

晋 陶潜「歸園田居」 書体||自由

### 習い方解説 (一)

山内 孝石

春雨が上がると晴れてもう緑の木陰、川を隔てた友人を日暮れに尋ねたという意。  
筆先を鋭くのびやかに書こう。

### 習い方解説 (一)

生田 翠龍

楷行草三体にわたる書法は須らく王羲之の筆法に始まるといっていると思います。そこで詩句は同時代の陶淵明、それも漱石あたりにもなじみの一句を採りました。  
気持ちを集中させ、思いきり筆を運びます。起筆は送筆をどうするかによって決めます。収筆は次画の起筆に連なる一環と心得て、慎重でなくてはなりません。

## 習い方解説 (一)

今月よりペン字を担当させていただきます。

私はペン字であれ毛筆であれ一文字を書くという事においては学ぶべき基本はすべて同じだと考えています。

もう10年位前になりますが、岡山へ来ていた洛陽市からの留学生の方々からさる企業よりのまれてペン字を一年半教えた事がありました。彼女達には平仮名との調和が一番難しいとの事でした。そこで「いろは」の仮名の基礎をしっかりと勉強してもらいました。

私達もそうです、一番実用的な行書に合わせるには、まろやかな線の仮名をしっかりと取得した方がよいと思います。単体ですが、気持ちの流れに注意して書いてください。

線の強弱・太細の変化は「つけペン」が一番だと思います。

※落款を入れ忘れないようにしてください。(落款は自分の名前を入れてください。)

いろはにほへとちりぬるを  
わかよたれそつねならむ  
う  
なのおくやまけふこえてあ  
せきゆめみし  
ゑひもせすん

竹即子書回

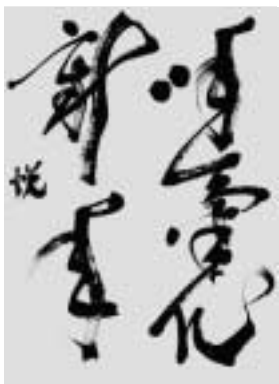
木一作品  
各部総評

NO. 561

漢字部 師範 山田 悦書

切れ味よく紙面を縦横に展開する筆致が心地よい。少々無理な字形もあるが明快さを買う。

◎漢字部総評 上級作例による行草表現が多かったが字形不安定なものも散見。下級楷書も同様、更に基礎的な修練を。  
(大雲評)



かな条幅部 準師範 武藤 房枝

この様な構成は各行の変化が特に必要ですが、リズムの緩急が素晴らしくバランス感覚白眉の作。

◎かな条幅部総評 一すぢはじではないので注意ノ名前を入れる時は、かな創作では通常かくとし、調和も考えること。  
(洋子評)

前衛書部 特選 佐藤 玲萌

紙面に対する構成素晴らしいし墨量に対し筆感よく、また余白も生き作品が大きく見え魅力的。

◎前衛書部総評 自分の感性を生かし、伸び伸びと豊富な表現を出して書いてください。  
(如水評)



漢字条幅部 師範 三木 江竹

簡素な造形で線の響きが高い。運筆明快で渴筆にも力があってよい。

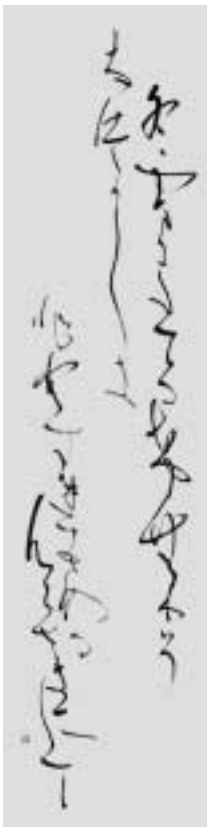
◎漢字条幅部総評 「筆の先に心がある」という。線の強さは書く人の意志の強さであり、線の響きは、心の響きである。  
(春洋評)



現代詩文書部 特選 池田 沙静

気力の充実したなかでの逞しい筆致で躍動感溢れる作品となっている。少々荒削りだが魅力的。

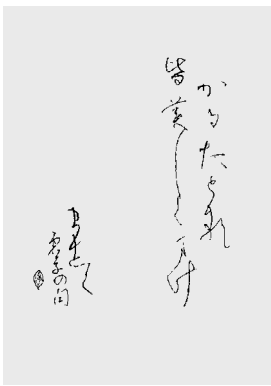
◎現代詩文書部総評 表現の幅も広がってきたが、小手先だけの表現に陥らないように。  
(石雲評)



ペン字部 師範 藤島 純一

草書把握し連ペン滑らか。線重厚で布置もよい。簡潔で安心感ある作。この緊密さを大切にご精進を。

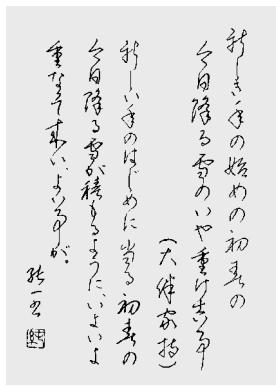
◎ペン字部総評 淀みなく運筆する作多く感心しました。行書正確でかなとの調和も落ついて書けていて良い傾向です。  
(京華評)



かな部 師範 高橋みね子

歯切れよい前半、強い線の後半のバランスがよく、句意に適った快作。迷いのなさがあれば。

◎かな部総評 かなの線は繊細で強いもの、込められたものを読むこと。落款まで作品としての緊張感を保ち制作のこと。  
(明子評)



# 特別研究部優秀作品(特選)

かな  
(玄穹)

千葉紅雪  
「山さくら今狂乱の…」

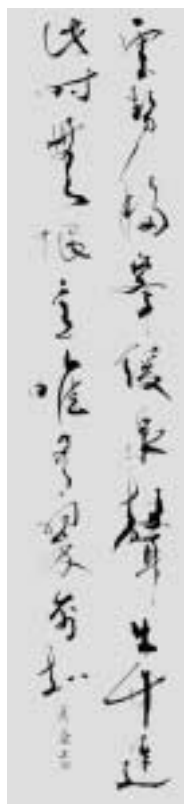
漢字  
(もくせい)

西川藤象  
「福昌縣會雨」



千葉紅雪書  
184×60cm

◆よくまとまっているが、線質は渴筆部分がやや単調、この大きさになれば俯仰法のひねりのある線で変化がほしい。  
 ◆行間の取り方が心にくい程適切に生かされている。濃墨で取り組み仮名の線の動きに呼吸をするように見る者に感動を与えてくれる。(倫子評)  
 ◆この大きさにかなとしての行構成、リズム感を見事にまとめた。但、線質が単調になったのと、文字の大小の組み合わせにやや違和感が残る。(洋子評)  
 ◆潤渴の変化が明快で動きある表現となっている。渴筆部にややくい込み不足の感あり、鋒先の鋭さが出にくいのか、用筆の工夫を。(大雲評)



西川藤象書  
180×40cm

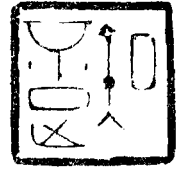
◆師風の現代性を巧く取り入れ、筆毛の弾力でリズムを弾き出す。一字一字が生きものように洗刺として目を引くが、より遅速の工夫を。(洋子評)  
 ◆細い線に巧みな強さを感じさせてくれる。線と線との流れの中、息を切ることなく続けて行く事は詩情豊かで、限りなく感銘をあたえてくれる。(倫子評)  
 ◆剛毫細長鋒筆の鋭さと弾力を生かしリズム感溢れる作である。渴筆部のやや上ずべりが気になる。小手先の動きでなく体全体での運筆を。(大雲評)  
 ◆極端な線の大小の組み合わせに酔ってはいないか？書は魂の叫びでありたい。書が昔から絵よりも尊重されたのは全人格の表現だったから。(春洋評)

## 総評

作品寸法が大きくなり色々な表現の作品が出てきた。全紙の場合は単純に半切の倍ではあるが、作品制作ではそうはいかない。5倍あるいは10倍もの手間と創造力が必要となる。それが他の分野となると基礎からの積み重ねになるが、院の場合は他の部門を理解しそれを自分の力として新しい書の創造を目指している。  
 今回は100点(漢20、か10、現43、前25、篆2)の出品があった。新しい年になり増えたことはよろこばしいことであるが、これを毎日展また秋季展等に生かしてゆくことが大切である。(蒼玄)

### 〈特選候補者〉

漢	墨宣	鑄木	梅道
玄穹	石森	光琴	
玄穹	土屋	光輝	
一弦	木村	貴衣	
舎人	高橋	小汀	
卯月	前田	まさ美	
現	うる	中野	黎峰
大雲	長島	僊雨	
游水	荒川	空華	
翠柳	加藤	紫翠	
声香	米倉	聲香	
湘南	佐藤	詠子	
蓮紅	浅野	彩紅	
行徳	浅見	由紀子	



大隅晃弘刻  
(原寸大)

篆刻

〔千華〕大隅晃弘

「知不足」

◆七分角の小印ながら冴えた細線は明快で、文字造形も新感覚を感じさせて妙。縁線やや重く感じられ、撃刃の味を少し加えてみたら如何。(大雲評)

◆繊細な中の品格さが魅力。文字の細線に比べて縁が少々重く平凡なのが残念です。白の生かし方が爽やかで新鮮、どこかに和的香りも漂う。(洋子評)

◆細い線がよく白をとらえて、造形力のある構成で明るい。「足」字下部「止」の変化か？周り強すぎるので窮屈な感じがする。新鮮さをとる。(春洋評)

◆石の形にとらわれず自分の思った事を彫る経験して見れば、細い線が美しく浮かび出ているので四角でない形に流れを造る様な彫れそう。(倫子評)

前衛書

(四谷) 鈴木白鷺 「凜」

◆筆の流れを作品に生かす事はごく大事、筆を止めても次に書く一筆に前の線の流れを出す技術。上下の動きの中に止まる所があっても…。(倫子評)

◆大胆な筆致が紙面を明快に息づかせ気魄ある作となった。上部の弾力ある動きに対し、下部やや平板な感あり。運筆のリズムを通貫したい。(大雲評)

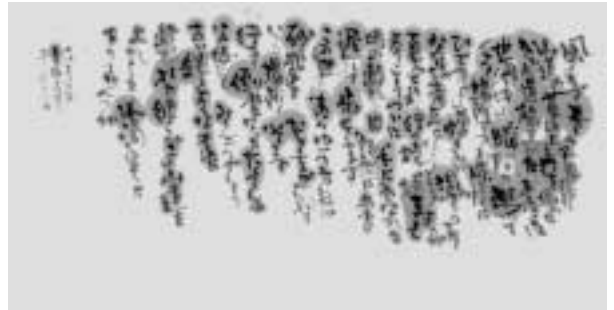
◆濃墨が折り重なった重厚さに動きの軽快さも入り、堂々とした作品です。筆を入れた瞬間の呼吸の深さに比して終筆の処理が荒く見えるが。(洋子評)

◆上部のかたまりは気迫十分に歯切れよく冴える。下部の動きがおとなしくなったのは呼吸が一貫しなかったからだろうか？ 休んだからか。(春洋評)



鈴木白鷺書

135×70cm



佐藤華炎書

70×136cm

現代詩文書書

〔炎佳〕佐藤華炎

「小池昌代の詩」

◆墨だまりと、にじみの効果が、紙面全体をまとめ、シャレた感覚の明るい作品となった。これも時代の感覚をうまく捉えたものだろう。(春洋評)

◆墨の造り方からの工夫を全体にうまく生かしている。細かい文字を上手に集合する中でこの墨の使い方は全体を大きく纏めていて立派。(倫子評)

◆飄々とした字形が独特のリズムを奏で、楽しい作。柔らかく広がる潤みが紙面に動きを与え、表情を豊かにして诗情溢れる作となった。(大雲評)

◆題名の如く不思議な雰囲気を持つ。淡々と感情を殺して筆を送り、特殊な墨の効果と相俟って筆者のシニカルな視線を感じさせて興味深い。(洋子評)

漢字研究部  
(雁塔聖教序)

選評 小林 琴水

今月のホープ作品



塚本 真由美

漢字研究部 特選 塚本真由美  
すっきりと、筆先のねじれを効かせて、整  
正された臨書。空間のとり方、線の強弱、よ  
くとらえられて、心温まる、すばらしい臨書  
作品である。将来が期待される。

◎漢字研究部総評

雁塔聖教序は、線が強くなるように、筆先  
のねじれを効かせて、ゆっくりと筆を運ばな

ければならない。早く書いて味のない線、形  
ばかり真似て、線がふらついている人、そ  
ういう臨書が多かった。もっと線質の高度を高  
めていただきたい。雁塔は、すっきりと、豊  
かな運筆で、美形である。書けば書く程、味  
が出てくるといった臨書です。墨の濃度にも  
充分注意したい。

賢具指 罕窮

無形潛寒暑以化  
物是以窺天鑿地  
庸愚皆識其端明  
陰洞陽賢指

洞明陰 陽

窺是以天

賢洞陽 指

無形潛 寒暑以

陰洞陽 賢指罕

暑以物 化

洞陽 賢指

陰洞陽 賢指罕

化物是 以窺天

無形潛寒暑以化  
物是以窺天鑿地  
庸愚皆識其端明  
陰洞陽賢指

無形潛 寒暑以化

洞明陰 陽

無形潛寒暑以化  
物是以窺天鑿地  
庸愚皆識其端明  
陰洞陽賢指

陽賢 指罕

無形潛 寒

無形潛寒暑以化  
物是以窺天鑿地  
庸愚皆識其端明  
陰洞陽賢指

是以窺 天鑿地

無形潛 寒暑以

無形潛寒暑以化  
物是以窺天鑿地  
庸愚皆識其端明  
陰洞陽賢指

陽賢 指罕

寒暑以 化

陰洞 賢

登澄尚桂道豊  
美香華苑石作

志篁紫正魯桂  
津右蘭江春泉

香侑白雙素麻  
舟豊香鶴春美

加妙初箕雪彩  
代邨江城篁舟

かな研究部 (伊勢集)

選評 朝倉春江

今月のホープ作品



近藤 閑憲

字型が端正で線質に潤があり、心地よいリズムを感じます。適度のスピードと、筆圧の自然さ、鏡度によって、平安朝風の優雅な秀作となりました。
◎かな研究部総評
行の途中で、筆圧の変化をあまり出さない、おらかな書風なので、拡大臨書や小さい規模の作品では、線の緊張が出せない作品が多く見受けられた。

光美皓 春佳萩 みみ紅 優良 あい
佐 枝 泉 蓮 栄 浜 どり 霞 子 佑 子
彩 枝 泉 蓮 栄 浜 どり 霞 子 佑 子

澄石正書大澄五 正書潮岩百も英卯竜A玉卯千正石春大N五玉蘭N卯翠
春習華雲春葉 華音沼谷く峰月泉I葉月葉葉習月日阪H葉松鼎月月吟
猪犬伊磯飯秋 宮岡菊石相大田新櫻藤阿栗飯内屋宮十池坂都橋川伊天近
瀬飼藤貝嵐山 崎部田崎澤野中谷村五部五野川崎崎崎野藤あい閑
玉道英則清紫 愛照杏正玉藤蒼嵐龍昌百子信光皓春佳萩 紅 霞
珠石子象洋子翠子泉子 美芳仙子 美芳仙子 美芳仙子

かな研究部成績表

Table with 4 columns and 10 rows of names and characters. Includes a '特選' (Special Selection) column on the right side of the table.

かな研究部 特選 近藤 閑憲



# 特別昇級試験

一、しめきり日 5月20日(火)

春季作品募集は、左記の通りです。

- 漢字 一種、二種
  - かな 一種、二種、三種
  - 漢字条幅 一種、二種、三種
  - かな条幅 一種、二種
  - ペン字 一種、二種
- 漢字、かな条幅、ペン字の三種は、秋季募集となります。

## 二、応募資格

- 一人で幾つの部にも応募できる。
  - 第一種 現在級が優級、10級、新規
  - 第二種 現在級が初段、3級
  - 第三種 (4~10級の方は受験できない)
- 現在級が準師範、秀級 (優級以下の方は受験できない)

## 三、課題文字と用紙

(創作文字は新旧字体どちらでも可)

※漢字・かな・漢字条幅の臨書作品は3月号入今月号583号V写真掲載の中から〔指定文字数〕を臨書。

### 漢字部

半紙にて長に使用

#### 第一種 (二枚)

楷 臨書 九成宮醜泉銘 (指定箇所より4文字を臨書)

#### 第二種 (計一枚)

### かな部

半紙にて長に使用 (料紙可)

#### 第一種 高野切第一種

かな部創作は、かな・漢字変更自由

(半紙一枚に指定の歌を二首書く)

#### 第二種 (計二枚)

臨書 和漢朗詠集

(半紙一枚に指定の歌を二首書く)

創作 百濟野の萩の古枝に春待つと居りし鶯なきにけむかも (山部赤人)

#### 第三種 (計三枚)

臨書 高野切第三種

(半紙一枚に指定の歌を二首書く)

臨書 寸松庵色紙

(半紙一枚に指定の歌を一首書く)

#### 創作

たて12.7cm×よこ12.4cmの枠(原寸の大きさ)を半紙に書いてその中に書くこと。

落款は右枠内・外どちらでも可。

#### 創作

別紙を裁断して貼付は不可。

藤波の影なす海の底清みしづく石をも玉とそ我が見る (大伴家持)

### 漢字条幅部

小画仙紙半切にて長に使用

#### 第一種 (一枚)

楷または行

創作 無心得良悟 (夢麟)

物事に無関心にして初めて物の道理を悟ることができぬ。

## 第二種 (計二枚)

楷 臨書 顔勤礼碑 (指定箇所より14文字を臨書)

行 創作 寒食杏花山店酒 春風楊柳寺門船 (董湖)

## 第三種 (計三枚)

楷 創作 夢回春草地塘外 詩在梅花烟雨間 (董湖)

夢は春草の明えそめに池埜の外に春を知り 詩は梅咲く細雨の中にある。

行 臨書 集王(字) 聖教序 (指定箇所より20字を臨書)

草 臨書 書譜 (指定箇所より14字を臨書)

## かな条幅部

小画仙紙半切にて長に使用 料紙可

### 第一種 (一枚)

創作 春寒や砂より出でし松の幹 (高浜虚子)

### 第二種 (計二枚)

創作 引く波の跡美しや桜貝 (松本たかし)

創作 霧雨のこまかにかかる猫柳 つくづく見れば春たけにけり (北原白秋)

### ペン字部

はがきの大きさ白紙にて長に使用 用黒インク使用

#### 第一種 楷 (一枚)

第二種 楷・行 (計二枚)

江碧鳥逾白 江碧にして鳥逾いよ白く 山青花欲然 山青くして花燃えんと欲す 今春看又過 今春看すまた過ぐ 何日是歸年 何れの日は是れ帰年ならん (帰) (杜甫)

#### 第二種 楷・行 (計二枚)

江碧鳥逾白 江碧にして鳥逾いよ白く 山青花欲然 山青くして花燃えんと欲す 今春看又過 今春看すまた過ぐ 何日是歸年 何れの日は是れ帰年ならん (帰) (杜甫)

#### 第一種 楷 (一枚)

第二種 楷・行 (計二枚)

江碧鳥逾白 江碧にして鳥逾いよ白く 山青花欲然 山青くして花燃えんと欲す 今春看又過 今春看すまた過ぐ 何日是歸年 何れの日は是れ帰年ならん (帰) (杜甫)

#### 第二種 楷・行 (計二枚)

江碧鳥逾白 江碧にして鳥逾いよ白く 山青花欲然 山青くして花燃えんと欲す 今春看又過 今春看すまた過ぐ 何日是歸年 何れの日は是れ帰年ならん (帰) (杜甫)

#### 第一種 楷 (一枚)

第二種 楷・行 (計二枚)

江碧鳥逾白 江碧にして鳥逾いよ白く 山青花欲然 山青くして花燃えんと欲す 今春看又過 今春看すまた過ぐ 何日是歸年 何れの日は是れ帰年ならん (帰) (杜甫)

#### 第二種 楷・行 (計二枚)

江碧鳥逾白 江碧にして鳥逾いよ白く 山青花欲然 山青くして花燃えんと欲す 今春看又過 今春看すまた過ぐ 何日是歸年 何れの日は是れ帰年ならん (帰) (杜甫)

## 四、名前のかき方

◎どの部も氏名または名、号を書く。印だけでは失格。特になかな・ペン字は注意のこと。

## 五、受験料

- 第一種 一、〇〇〇円
  - 第二種 二、〇〇〇円
  - 第三種 三、〇〇〇円
- ◇昇級試験用振替口座、または現金書留で納入。

## 六、審査結果と昇級

成績に応じて、次の通り昇級させる。

- 第一種は、最高秀級まで
- 第二種は、最高二段まで
- 第三種は、最高師範まで

## 七、応募手続

- 1 出品票はバーコード出品券を使用。作品の右下に、一枚毎につける。(三種には三枚つける)
- 2 現段級とは54号(4月号)の段級。作品二枚以上ある時は、右上をホチキスまたはのりでとめる。
- 3 支部の方は、名簿形式にします。受付番号をいれ、お送りします。
- 4 個人で受験希望の方は、①受験の申し込みをする
- ②申し込み先
  - 〒101-0031 千代田区東神田1-16-1
  - 7 東神田プラザビル三階
 (書道芸術編集部・特別昇級試験係宛)

書道芸術編集部・特別昇級試験係宛

80円切手貼付、住所、氏名明記の返信用封筒を同封のこと。

(受験番号を記入した個人専用の応募書類を送付します。)

◎送付された応募書類に必要事項記入の上、作品に添え応募する。

## 備考

- 受験申込み締切りは4月30日。
- 応募書類は5月1日以後に発送。